

[048]言語文化論究表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/4773106>

出版情報：言語文化論究. 48, 2022-03-17. Faculty of Languages and Cultures, Kyushu University
バージョン：
権利関係：

退職教授研究業績表

カスヤン アンドレアス シュテファン 教授

I. 著 書

1. 共著『CALL 教材 ドイツ語』
(岡野進・阿部吉雄・杉浦謙介との共著, DVD 付, 丸善(株), 2007年5月)

II. 論 文

1. 単著「Die Untersuchung des Erstspracherwerbs und seine Bedeutung für den Erwerb einer Fremdsprache.」
(『独仏文学研究』42号, 87~147頁, 九州大学独仏文学研究会, 1992年9月)
2. 単著「Chancen und Probleme zweisprachiger Erziehung: Deutschland und Japan.」(『言語文化論究』4号, 15~30頁, 九州大学言語文化部, 1993年2月)
3. 単著「Zweitsprachenerwerb und Fremdsprachenunterricht.」(『独仏文学研究』43号, 103~135頁, 九州大学独仏文学研究会, 1993年10月)
4. 単著, 查読有り「Sprache, Rasse und Kultur: Betrachtungen zur Mystifikation des Phänomens Sprache in Deutschland und Japan.」(『西日本ドイツ文学』6号, 1~9頁, 日本独文学会西日本支部, 1994年11月)
5. 単著「Notbehelf oder positive Lernhilfe? Zur Auseinandersetzung um die Rolle der Muttersprache bei der Semantisierung im Fremdsprachenunterricht.」(『かいろす』32号, 86~105頁, かいろすの会, 1994年11月)
6. 単著「Die bilinguale Methode im Deutschunterricht für japanische Studenten I.: Die Einführung in die Aussprache und das unterrichtliche Funktionsvokabular.」(『独仏文学研究』45号, 159~171頁, 九州大学独仏文学研究会, 1995年7月)
7. 単著「Die bilinguale Methode im Deutschunterricht für japanische Studenten II.: Die Einführung in die Textarbeit.」(『言語文化論究』7号, 125~142頁, 九州大学言語文化部, 1996年3月)
8. 単著, 查読有り「Fremdsprachenkenntnisse als Gradmesser der Internationalisierung?: Zur Möglichkeit interkulturellen Lernens im Deutschunterricht.」(『西日本ドイツ文学』8号, 21~31頁, 日本独文学会西日本支部, 1996年11月)
9. 単著「ドイツ語の入門期における『バイリンガル教授法』」(『言語文化論究』8号, 1~22頁, 九州大学言語文化部, 1997年3月)
10. 単著, 查読・字数制限あり「Deutschunterricht unter erschwerten Bedingungen: Grammatik als Risiko und Chance.」(『Deutsch als Fremdsprache』35号3巻, 168~171頁, Herder-Institut, 1998年9月)

11. 単著「Grammatik im Deutschunterricht für japanische Studenten: Zur Integration von Grammatik und Wortschatzarbeit.」(『独仏文学研究』50号, 83~94頁, 九州大学独仏文学研究会, 2000年7月)
12. 共著, 査読・字数制限あり「Das mündlich-muttersprachliche Mitteilungsäquivalent: Ein neuer Ansatz für die Bedeutungsvermittlung.」(『Germanistische Linguistik』155~156号, 179~184頁, Wolfgang Butzkammとの共著, Forschungsinstitut für Deutsche Sprache, 2000年7月)
13. 単著「Betrachtungen zur Verbvalenz und ihrer Bedeutung für den Deutschunterricht.」(『言語文化論究』14号, 105~112頁, 九州大学言語文化研究院, 2001年7月)
14. 単著「Message/Medium-orientated Communication in the German FL-class for Japanese Students of the First Academic Year.」(『言語科学』37号, 49~55頁, 九州大学言語文化研究院言語研究会, 2002年3月)
15. 単著「独和辞典で使用されている /r/ と /l/ の仮名表記の問題——日本語を強い言語、ドイツ語を弱い言語とする二言語使用児の /r/ と /l/ の聞き分け様式に関する調査を参考資料として」(『言語科学』38号, 79~89頁, 九州大学言語文化研究院言語研究会, 2003年3月)
16. 単著「多言語習得とその使用——二言語使用児のバイリンガル言語習得と外国語授業におけるバイリンガル教授法」(『言語文化研究叢書』9号, 1~14頁, 九州大学言語文化研究院, 2004年2月)
17. 単著「Die bilinguale Methode im Studienjahr 2002/03.」(『言語科学』39号, 25~42頁, 九州大学言語文化研究院言語研究会, 2004年3月)
18. 単著, 査読有り「Die bilinguale Methode im Deutschunterricht für japanische Studenten.」(『On JALT 2003: Keeping Current in Language Education』449~457頁, JALT, 2004年10月)
19. 単著, 査読有り「外国語 CU プロジェクトにおけるドイツ語教材——ビデオスキット部の開発について——」(『ドイツ語情報処理研』18号, 49~58頁, ドイツ語処理研究会, 2007年10月)
20. 単著, 査読有り「Kurzpraktikum in Deutschland: Neues Konzept einer Studienreise.」(『西日本ドイツ文学』20号, 1~10頁, 日本獨文学会西日本支部, 2008年11月)
21. 単著, 査読あり「ウェブ教材『CALL ドイツ語』を利用したドイツ語授業」(『言語文化論究』28号, 105~119頁, 九州大学言語文化研究院, 2012年2月)
22. 単著, 査読有り「Das Mobiltelefon als Mittel zum Fremdsprachenlernen: Zur Entwicklung eines Lernmoduls für japanische Studenten.」(『IDT 2013, Band 6, Medien in Kommunikation und Unterricht』17~30頁, Sebastian Chudak et al., 2016年7月)
23. 単著「ドイツ語学習と短期間の研修旅行——研修旅行の充実化を目指して」(『言語文化論究』39号, 21~31頁, 九州大学言語文化研究院, 2017年9月)
24. 単著「Organisation, rechtlicher Rahmen und Durchführung von Studienreisen am Beispiel zweier Studienreisen der Universität Kyushu.」(『Lektorenrundbrief』50号, 38~42頁, DAAD, 2019年12月)

III. その他

1. 単著「3D-IES の国際化に向けて」(『サイバースペースを活用した国際言語情報の多元的研究と教育, 平成11年度~13年度九州大学教育研究プログラム・研究拠点形成プロジェクト C タイプ』65~77頁, 2002年3月)

2. 単著「ウェブ教材『CALL ドイツ語』を取り入れた初修外国語授業」(『第56回九州地区大学一般教育研究協議会議事録』65~77頁, 九州地区大学一般教育研究会, 2008年3月)
3. 単著「初修外国語による携帯電話用表現モジュールの開発」(『ドイツ語情報処理研究』21号, 67~74頁, 日本ドイツ語情報処理学会, 2011年6月)
4. 共訳『「イスラム国」の内部へ 悪夢の10日間』ユルゲン・トーデンヘーファー(津村正樹との共同翻訳, 白水社, 2016年, 323p, ISBN: 978-4-560-09247-7)

IV. 学会発表

1. 単独発表「Deutschunterricht unter erschwerten Bedingungen: Grammatik als Chance und Risiko.」(XI. Internationaler Deutschlehrertag, オランダ王国アムステルダム大学, 1997年8月5日)
2. 単独発表「Deutschunterricht unter den Bedingungen des neuen Curriculums: Die bilinguale Methode in der Unterrichtspraxis.」(日本独文学会西日本支部ドイツ語教育部会第3研究発表会, 福岡大学, 1997年7月5日)
3. 単独発表「Semantisierung, Grammatik, Kommunikation.」(1997年日本独文学会秋季研究発表会, 沖縄国際大学, 1997年12月6日)
4. 単独発表「Die bilinguale Methode in Deutsch I und II.」(日本独文学会西日本支部ドイツ語教育部会第4研究発表会, 大分大学, 1998年7月5日)
5. 単独発表「Mitteilungsbezogene Kommunikation im Fremdsprachenunterricht.」(第24回全国語学教育学会年次国際大会, 大宮ソニックシティ, 1998年11月21日)
6. 単独発表「Zur Integration von Phonetik-, Grammatik- und Wortschatzarbeit im Deutschunterricht für japanische Studenten.」(XII. Internationaler Deutschlehrertag, スイス共和国ルツェルン市会議場, 2001年8月3日)
7. 単独発表「Verbvalenz im japanischen Deutschunterricht: Zur Unterscheidung zwischen Angaben und Ergänzungen sowie zum Zusammenhang zwischen Valenz und Bedeutung.」(第54回日本独文学会西日本研究発表会, 熊本大学, 2002年11月30日)
8. 単独発表「Fremdsprachenunterricht und die bilinguale Methode.」(第29回全国語学教育学会年次国際大会, 静岡グランシップ国際会議場, 2003年11月22日)
9. 単独発表「Wortschatzarbeit mit Hilfe von Rollenspielen im Deutschunterricht.」(XIII. Internationaler Deutschlehrertag, オーストリア共和国グラーツ大学, 2005年8月5日)
10. 単独発表「Übersetzungen im bilingualen Spracherwerb und im Fremdsprachenunterricht.」(第31回全国語学教育学会年次国際大会, 全国語学教育学会, 静岡グランシップ国際会議場, 2005年10月10日)
11. 共同発表「外国語CUプロジェクトにおけるドイツ語教材開発」(杉浦謙介との共同発表, e-Learning教育学会第3回大会, 大阪大学, 2006年10月21日)
12. 単独発表「Zur gegenwärtigen Situation des Fremdsprachenunterrichts an der Fakultät für Sprachen und Kulturen der Kyushu-Universität: Schwerpunkt Deutsch und Englisch.」(第32回全国語学教育学会年次国際大会, 北九州市国際交流センター, 2006年11月3日)
13. 単独発表「印刷教材からWeb用教材へ —— Web用ドイツ語教材の開発を巡って」(2007年情報文化学会発表会, 九州大学, 2007年1月27日)
14. 単独発表「Werbung für Deutsch: Kurzstudienreise nach Deutschland mit Betriebspraktikum für japanische

- Deutschlerner.」(Regionale IDV-Tagung Deutschlehrerverband Burjatien, Internationaler Deutschlehrerverband, ロシア連邦ブルヤット共和国ウランウデ市ブルヤット国立大学, 2007年6月5日)
15. 単独発表「ウェブ教材『CALL ドイツ語』を取り入れた初修外国語授業」(第56回九州地区大学一般教育研究協議会, 西南学院大学, 2007年9月14日)
 16. 単独発表「Zum WBT-Sprachlernsystem CALL Deutsch.」(第33回全国語学教育学会年次国際大会, 国立オリンピック記念ユースセンター, 2007年11月23日)
 17. 単独発表「Kurzpraktikum in Deutschland: Neues Konzept einer Studienreise.」(第59回日本独文学会西日本支部研究発表会, 山口大学, 2007年12月8日)
 18. 単独発表「Zur Erweiterung des sprachlichen und kulturellen Erfahrungshorizontes: Studienreise nach Deutschland mit Betriebspрактиkum für japanische Deutschlerner.」(第34回全国語学教育学会年次国際大会, 国立オリンピック記念ユースセンター, 2008年11月1日)
 19. 単独発表「Zur Entwicklung des WBT-Sprachlernsystems CALL Deutsch und seiner Anwendung im Deutschunterricht an der Kyushu-Universität.」(XIV. Internationaler Deutschlehrertag, ドイツ連邦共和国ヴァイマル大学, 2009年8月4日)
 20. 共同発表「Research Project to develop an “Expression Module” for Japanese Learners of a second FL: Grand in Aid for Scientific Research B.」(岡田義広, 李郁尊との共同発表, 第36回全国語学教育学会年次国際大会, 名古屋市愛知県産業労働センター, 2010年11月20日)
 21. 単独発表「携帯電話を初修外国語学習用のツールの開発研究」(全国語学教育学会 CALL 研究部会2011年研究発表会, 久留米大学, 2011年6月5日)
 22. 単独発表「Zur Entwicklung eines multilingualen Lernmoduls für Mobiltelefone.」(第38回全国語学教育学会年次国際大会, 浜松市アクトシティ浜松, 2012年10月13日)
 23. 単独発表「初修外国語によるスマートフォン用表現モジュールの開発について」(日本ドイツ語情報処理学会2012年度研究発表会, 大阪大学豊中キャンパス, 2012年12月16日)
 24. 単独発表「Das Mobiltelefon als Mittel zum Fremdsprachenlernen: Zur Entwicklung eines Lernmoduls für japanische FL2 Lerner.」(XV. Internationaler Deutschlehrertag, イタリア共和国ボルツァーノ自由大学, 2013年8月2日)
 25. 単独発表「初修外国語による携帯端末用表現モジュールの開発について」(第39回全国語学教育学会年次国際大会, 兵庫県神戸市神戸コンベンションセンター, 2013年10月26日)
 26. 単独発表「多言語による Web 教材の開発」(第40回全国語学教育学会年次国際大会, 茨城県つくば市つくば国際会議場, 2014年11月22日)
 27. 単独発表「Zur Entwicklung eines Web-basierten Lernsystems für zweite Fremdsprachen.」(第66回日本独文学会西日本支部研究発表会, 宮崎市宮日会館, 2014年11月29日)
 28. 単独発表「Things to be achieved – achievable things.」(全国語学教育学会他言語教育研究部会第4回研究発表会, 名古屋市中京大学, 2015年10月24日)
 29. 単独発表「Kurzpraktikum in Deutschland.」(DAAD Fachtag 2015, 名古屋市中京大学, 2015年11月28日)
 30. 単独発表「Teaching German as a Second Foreign Language in Japan.」(International Conference on Applied Linguistics, 台湾台北国立台科技大学, 2017年11月17日)
 31. 単独発表「Organisation, rechtlicher Rahmen und Durchführung von Studienreisen.」(DAAD Lektorenfachseminar, 琉球大学, 2018年6月22日)

V. 教育上の業績

1. 教材開発
 - IT教材『CALL ドイツ語』の開発
 - 初修外国語による携帯電話用表現モジュールの開発
2. 西日本支部学会「Inter-Uni Kyushu」（合宿ドイツ語講座）
 - 「第2回 Inter-Uni Kyushu」（1990年8月2日～6日）, 「第3回 Inter-Uni Kyushu」（1991年8月1日～5日）の企画・運営・授業
3. 「ドイツ語とドイツ文化研修旅行」
 - 「第10回ドイツ語とドイツ文化研修旅行」（1993年3月）への協力
 - 「第11回ドイツ語とドイツ文化研修旅行」（1994年3月）～「第13回ドイツ語とドイツ文化研修旅行」（1996年3月）への協力と3年連続の引率
4. 「ドイツ・インターンシップ研修」
 - 「第1回ドイツ・インターンシップ研修」（2003年3月）～「第16回ドイツ・インターンシップ研修」（2020年3月）の企画・運営・13年連続の準備・引率
5. オーストリア政府認定ドイツ語能力検定試験（ÖSD）
 - 九州大学箱崎キャンパスで毎年1回行われる「オーストリア政府認定ドイツ語能力検定試験」のための試験対策指導教員および試験官（2004年～2015年）
 - 九州大学箱崎キャンパスで毎年1回行われる「オーストリア政府認定ドイツ語能力検定試験」のための試験対策指導教員および試験官（2016年～2018年）
 - 伊都キャンパスで毎年2回行われる「オーストリア政府認定ドイツ語能力検定試験」のための試験対策指導教員および試験官（2019年～2020年）
6. 外国語プレゼンテーションコンテスト
 - 伊都キャンパス「外国語プレゼンテーションコンテスト」のドイツ部門代表者（2010年～2021年）

VI. その他特記事項（内部資金・外部資金の獲得）

- 「初修外国語による携帯電話用表現モジュールの開発研究」
科研基盤研究B, 22320106
研究代表者：Kasjan, Andreas, 研究期間：平成22年度～平成24年度
配分金額
平成22年：2,300千円（直接経費），690千円（間接経費）
平成23年：1,700千円（直接経費），510千円（間接経費）
平成24年：700千円（直接経費），210千円（間接経費）
- 「初修外国語によるWeb教材の開発・発展研究」P&P,C-タイプ
研究代表者：Kasjan, Andreas, 研究期間：平成24年度～平成25年度
配分金額
平成24年：2,730千円
平成25年：2,730千円（予定）